



第452回 5/7 下鶴間太極拳クラブ

代表 延原登美子さん 会員 芝原悦子さん・鈴木智賀子さん

1996年の5月に発足し、現在メンバーは30名、2年後クラブ30周年の記念行事を計画しています。

健康維持が一番の目的なので、楽しく身体を動かして、健康維持につなげられたらと思って活動しています。太極拳は全身運動で、続けていると体力が付き、足腰が鍛えられる。呼吸法もあるので、循環器も鍛えられ、気持ちも落ち着く。動作を少しずつ覚えていくということでは脳トレにもなる。年齢や性別を問わず、また人と競うスポーツではないので、自分のペースで、体が動く限り続けられる「生涯スポーツ」とのことです。



太極拳に興味のある方、下鶴間太極拳クラブに参加してみたいと思われた方は、お気軽に活動場所に見に来て下さい。大歓迎です！と、呼びかけました。☆楽しさあふれるクラブです♪

6月の出演 第454回 6/4 Nail Salon Ku_u

FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00~9:30 同日再放送 15:00~15:30

第453回 5/21 大和華道協会

会長 大垣鳳菜さん 広報 荻窪一成さん

昭和26年10月26日発足、今年73年で、現在会員は108名です。会員相互の技術の研究と親睦を図り、いけばなの普及と、いけばなを通じて地域の文化の一端を担うことを理念に活動されています。協会主催のいけばな展の他に大和市役所・市民活動拠点ベテルギウスに花席の設置、神奈川県華道展に出瓶など多方面で活躍しています。



「お花を見て、興味を持っていただいですそ野を広げ、華道協会に加入して下さいればもっといいのですが…時間との戦いの生き物の中で楽しんでいけたらと思っております」と大垣さんが語り、放送を終えました。

なお、5月吉日をもって大垣鳳菜会長は退任され、荻窪一成さんが会長に就任されています。

第455回 6/18 「このゆびとまれっ！」

TSUBASA's トーク 第31回 「真鶴探索」

5月の週末、計画していた家族旅行が妹のバイトでキャンセルになり、一人張り切っていた私は、階段を踏み外したように期待を持たず結果になった。仕方ないことではあったが、私の誕生日を祝うと誘われた旅行でもあったので、手帳のカレンダーが空白なのをみると、何か自分なりにお祝いでもしないと寂しい年になる気がした。

仕事に追われるようにそのまま旅行を予定していた日になった。予定は決まっていなかったが、とにかく土曜の朝早くに家を出た。

旅先を決めるときはスマホのマップアプリで地図上から探すがマイブームだ。最寄り駅までのバスの中で地図を見ていると、神奈川と静岡の県境に、相模湾に突き出た半島、「真鶴岬」の文字が目に入った。ネットで調べると波に打たれる磯の写真が並んでいる。海風に当たって本を読んだり、海をカメラで撮ったりしたい気分になった私は、ここを訪れることにした。



東海道線の小田原と熱海の間の真鶴駅で降り、観光案内の地図を手に岬まで歩くことにした。住宅街の間を通る急な下り坂を抜けると、漁港に出た。船のガソリンと、港の魚くさい匂いで、すっかり旅気分。漁港からは坂に並ぶ家々が見渡せた。

昼食は漁港近くの料理屋へ。外観は日本家屋で、気取っていない老舗な雰囲気好みだった。屋内も誰かの家を訪れたようなつくりで、案内された客間には4つのテーブルが並び、壁には甲殻類の殻を使ったお面や、マンボウの標本が飾られていた。50歳くらいのご夫婦が経営しているようだった。



注文したお刺身定食は、魚の種類も多く胸が弾んだ。奥様が「地魚だけ出していますので」と紹介してくれたのは、タイ、ワラサ(ブリの未成年)、アジ、シイラのお刺身で、ワラサの子の煮つけまで。どのお刺身にも弾力があって食べ応えがあり、量も食べきれないほどだった。

代金を払うときも「私の息子もカメラが好きでよく撮りに行きます」「この先もお気をつけて」と感じの素敵なご夫婦だった。

テトラの並ぶ海岸沿いの道から山に入り、越えるように道を進むと、三ツ石や初島が見える岬についた。海岸の磯には火山岩の大岩が多くあった。ジオパークによると、磯は箱根火山の溶岩流の一部としてつくられ、固有のイソギンチャクも生息しているらしい。実際、岩場を歩くと潮だまりの穴ハゼの群れがコマ送りのように自分の先へ逃げていく。岩の間にはカニが構えてじっとしていた。

木陰になった岩場でしばらく腰かけて、海を眺めると、5年前の夏に石垣島でボランティアをしていた日々を思い出した。またこの1年間も、入院や就活と特に大変だった。次の年はどんな1年になるだろうか。空を見上げると、飛行機とカモメが重なって飛ぶのが見えた。



(サポーター 尾畑 翼)

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第203号 発行日：2024年6月10日

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和深見西1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokiyoten.com/

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第203号 2024年6月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

6月号
2024

ベテルギウス玄関
6月6日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)
主催「第16回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を毎月掲載しています

今回のテーマ ~ここから、未来へ~
アトリエみち賞

池田 凜香さん(日本・台湾)
中央林間小学校3年(当時)

タイトル「ここから、未来へ」
つながる命

★メッセージ★

世界で起きている戦争で、おさない子どもたちがたくさんなくなっています。そんな悲しい戦争がなくなってほしいというねがいこめて

「ここから、未来へ」つながる命を描きました。

「やまと国際アートフェスタ」は、「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *主催で毎年開催されています。

*「IFC」は、草の根の国際交流、外国人支援を行っている、「ともにくらすまち大和」を考えるボランティアグループです。

令和6年度大和市協働事業提案公開プレゼンテーション

○日 時 6月29日(土) 9時30分~12時20分
○場 所 大和市役所会議室棟 101・102 会議室
○発表順

- ふれあいの森ドッグラン運営管理
- 地域で支え合う「のりあい」を走らせよう
- 生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ
「つま読み書きの部屋」
- 地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校開放事業
- 移動制約者の外出介助サービス事業
- 障がい者・高齢者のための「外出介助サービス」事業
- 有償移動サービス
- みんなで作ろう安心のまち事業

第107回 共育セミナー

子どもも大人もともに育ちあう「場」づくりの大切さを、
みんなで考えてみませんか!

○スピーカー 伊知地るみさん(特定非営利活動法人さくらの森・
親子サポートネット理事長)

○日時 7月6日(土) 14時~16時

○場所
大和市民活動センター
会議室2

○定員 25名(先着順)

○申込み 7月3日(水)まで



市民活動センターの市民交流スペースに、月2回開きます



市民交流カフェをはじめるわけ

大和市民活動センターの1階フロアの中央には、だれでも自由に無料で、予約なしに使える「市民交流スペース」があります。

予約した会議室の使用前後に時間調整や打合せに使ってもよし。市民の方の市民活動ブースである「部室」や起業家支援スペース「リゲル」を利用している方が、ちょっと休憩に使ってもよし。ちょっとしたミーティングや待ち合わせにも使え、そんなフリースペースですが、中学生、高校生が年間をとおして勉強しているという利用形態が一般的です。

そんなフリースペースのある「大和市民活動センター」は大和市協働事業（行政提案型）として拠点やまとと市民活動課が協働運営していますが、今年11月で開館20周年を迎えます。

これまで、さまざまな分野の市民活動を推進し、市民活動団体が出会い、つながり、共に育つ「共育：ともいく」する場をコンセプトに運営して来ました。2018年4月1日に「市民活動拠点ベテルギウス」にその場を移して、場の提供を行っています。

このような中、昨年5月から新型コロナウイルス感染症も5類感染症に引き下げられ活動の制約がなくなり、このたびの開館20周年を迎えるにあたり、「市民交流スペース」の意味を問い直し、活気ある場所を生み出そうと「市民交流カフェ」をやってみることにいたしました。

こどもたちや、わかものと言われる世代のみなさんに、市民活動センターに来てもらうにはどうしたらよいか。市民活動ブース「部室」の利用団体のみなさん同士の交流、やまと起業家支援スペース Rigel 入居者の方とも交流して、化学反応を起こしてもらいたい。こんな想いもありまして、市民交流カフェをオープンいたします。

カフェオープン日は、基本的に第1土曜日及び第3水曜日の15:00～17:30。みなさん、ふらっとお越しください。8月までの開催予定日はつぎのとおりです。

6月19日（水）、7月17日（水）、7月29日（月）、8月3日（土）、8月21日（水）

センターの事業等の都合により、開催曜日が変更になる場合があります。



ドリンク、インスタントコーヒーなどをご用意していますが、本や漫画、ゲームなどを用意しているので、自由に遊んでください。



いまなら、大和市にご縁がある村上もとかさんの漫画単行本「RON 龍（全42巻）」が読み放題。スポーツスタッキング（写真上右）で、キミの運動神経も磨けるよ!!

「厚生労働省は6月5日、2023年の人口動態統計を公表した。1人の女性が生涯に産む子どもの推計人数を示す合計特殊出生率は1.20で、22年の1.26を下回り、過去最低を更新した。低下は8年連続。東京は0.99で、全国で初めて1を割り込んだ」こんな中、将来を担うこども、わかものは責任を背負うのに、なかなか社会に参画する機会が与えられてない。大人が考えている以上にこどもたちは、社会のこと、地域のことを考えているのに。お金の支援だけでなく、国は子どもたちが参画する機会を補償すべきだと思う。(F)

いつも市民活動センターを利用している団体には、この時期、登録更新をいただいています。その更新申請書の中に2023年度を振り返って、感じたこと、思ったこと、今後につなげたいことを書いていただいています。今号では、そのコメントを一部ご紹介いたします



コミュニケーション“談”

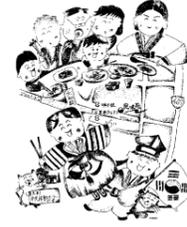
今年も参加された方から、お子さんたちのことや親御さん自身のことを聞くことができました。参加者のお子さんたちは、15歳から20歳くらい。自分で動き始めている人もいれば、まだ動けない人もいます。が、親たちは、自分のやりたいことやできることをされています。コロナ禍も終わっては来ていますが、何かにつけ、受けた影響は大きいように思います。メンバーの感想です→「市民が気軽に使える場があることが大切だなーと思います。おかげでここまで、活動が続けてこられました」これからも無理せず、メンバー一同、続けていこうと話合っています。

大和南京玉すだれジャグリングクラブ

大和市民活動センターの動画（大和南京玉すだれ演芸会の）の反響がおかげ様であり、さらに大和市民のみなさまにみていただくようにしています。カッコフェスタもコロナ等でお祭りがなく、昨年はマジック、踊り、南京玉すだれとお祭りも楽しく披露でき、会員の方も喜んでおりました。代表者も、大和市民の更に若い方に大和南京玉すだれを伝承していく努力をしております。

やまと国際フレンドクラブ (IFC)

コロナ禍でできなかったことも、すべてできるようになり、ようやく日常に戻ってきました。夏のまなべ〜では、大和翠会の岩本先生にご協力をいただき、茶道体験を行うことができ4か国の方が参加され、高校生ボランティアと共にとてもよい学びの場となりました。今年度は、インターナショナルパーティーを新たな試みとして、Internanional Cooking Partyと題して、シリウスの調理室で行いましたが、20名近い方が参加して、肉まん、ブラジルのサラダを作りながら交流でき、やはり食は国際交流の原点だと実感しました。2024年度もこの形で発展させていきたいと思ひます。今年度もこれまでの経験を生かして、オリジナリティーのある活動をしていきたいと思ひます。



5月は市内で活躍されているNPO法人の総会シーズンですが、市民活動センターのスタッフが参加させていただいたので、その様子を一部レポートいたします

特定非営利活動法人 WE21 ジャパン大和総会 (5月24日 桜ヶ丘学習センター)

2023年度の事業報告として、民際支援事業（アジアの人々の生活向上と自立のための活動支援）をはじめとして資源のリユース・リサイクルを推進する事業、広報活動、平和な社会実現に向けての活動、他の市民団体と、企業や事業者との連携など多岐に渡る活動報告がされました。その活動を元に実施された東南アジアから日本まで多くの団体への支援・助成報告を伺い、改めて民際支援事業の素晴らしさに胸が熱くなりました。総会終了後の第2部WE講座テーマ『ごはんのおかわりはなしだよと言っているの』という声から始まったフードバンク活動～（講師 特定非営利活動法人 さくらの森・親子サポートネット理事長 伊知地るみさん）では、こども食堂の発足から今に至るまでの想いと現状報告がありました。総会から講座という一連の流れを経て全ての根底には他者への想いがあり、より内容の濃い活動を継続する源になっていると感じました。大きな学びを得て感謝です。(辺見)



環境保全の推進を図ると共に、アジアの人々の生活向上と自立に寄与し、市民の環境・平和・協力等の意識の自覚を図っています。リユースリサイクルを推進し、その利益でアジアの女性の自立・母子保健・女子の教育に対する支援・水害・津浪災害復興支援にも寄与しています。

特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる 第27回通常総会 (5月19日 大和市保健福祉センター 講習室I・II)

「ケアびーくる」の総会に出席させていただき、コロナが落ち着き利用者が増大する中で、運転手不足が深刻な問題となっていることがよくわかりました。利用者さんのご要望には、しっかりと応えたいが、非常に厳しい状況が続いていること。さらに、運転手不足の影響は色々な業種に広がっているため、その影響も受けていること。そのため、これまで運転手の年齢制限を75歳としていたところも、年齢制限を延長するようになっていたとお話がありました。特に、過疎地の個人タクシーについては、80歳まで運転できるように法改正が行われたとの説明には、参加者されたみなさんが大変驚かされていました。人生100年時代を迎える中で介護を必要とする人、また障がいを持っている人などを、安全で利用しやすい移動サービスを行うために、「ケアびーくる」が懸命に取り組まれていることに感銘を受けました。総会は、私自身もいろいろ考える貴重な経験となりました。(白井)



「ワーカーズ・コレクティブケアびーくる」は、大和市を中心に外出介助サービスを行っています。外出準備や外出先などでの付き添い、トイレ介助、車いす介助等もOK。通院や通所だけでなく、リフレッシュのためのお出掛けもできます。少人数でしたら、ご家族などとの同乗も可能です。音楽会やお墓参り、冠婚葬祭など幅広くご利用いただいています。(団体HPより)

特定非営利活動法人 桜の森・親子サポートネット 第9回通常総会 (5月26日 みんなのスペースわにわに)

子育てにおける「子どもも大人も共に育ちあう場づくり」に強い想いを持って活動されていました。総会資料はしっかりと整理されていて、きめ細やかな活動をされていることがよくわかりました。更に活動を充実させるために、各活動の課題などを洗い出し、それをフローチャートなどで可視化することにより、みんなが同じ方向に向かって連携していることがよくわかりました。

また、「赤ちゃん食堂」などの新しい取り組みもチャレンジするなど、みなさんのパワーを強く感じる事ができました。一方、開会の絵本「あさいち」や、日頃の園児の姿を映した映像を見るみなさんは優しさに溢れて、喜びや幸せを感じられているようで、とても微笑ましく感じました。

ただ、男性の出席者は、私と地元自治会長の2人だけだったので、少し恥ずかしかったです。でも、みなさん大変優しくしてくださり、最後は照れながら一緒に集合写真を撮りました。(白井)



就学前の子どもと、お母さんお父さんなど保護者の方のひろばです。子どもを連れて、ゆっくり、のんびりできる場所、困ったな〜どうして？が言える聞ける場所。サンダル履きで行ける近所の実家のような場所になるといいなと思っています。子どもたちの絵本やおもちゃだけでなく、子育て中の方に読んでもらいたい本なども置いていますよ。(みんなのスペースわにわにHPより)